

みらいビジョン中国21 “2004” フォローアップ

平成21年8月

みらいビジョン中国21策定委員会

中国地方整備局、中国運輸局、大阪航空局、第六管区海上保安本部、第七管区海上保安本部、第八管区海上保安本部、大阪管区气象台、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、岡山市、広島市

目 次

序 章	みらいビジョン中国21 “2004” フォローアップ	1
第1章	アウトカム指標のフォローアップ	3
1-1	アウトカム指標の進捗状況	3
1-2	アウトカム指標の目標別進捗状況	5
1-3	アウトカム指標の目標別状況一覧	8
1-4	23の具体的目標別アウトカム指標のフォローアップ	10
I.	安全で、誰もが安心して暮らせる地域づくり	
I-1.	洪水、高潮、地震、土砂災害などの災害や重大事故等に対して強い地域づくりを推進する。	
	・ 重点的な投資により浸水被害の解消を図る戸数	10
	・ 近年床上浸水の頻発している河川での浸水被害を解消する戸数	13
	・ 土砂災害から保全される戸数	16
	・ 土砂災害から保全される災害時要援護者関連施設	19
	・ 津波高潮による災害から一定の水準の安全性が確保されていない地域の面積	22
	・ 侵食海岸において海岸保全施設の整備が完了されていない割合	25
	・ 港湾による緊急物資供給可能人口	28
	・ 防災拠点官庁施設の耐震化率	31
	・ 事前通行規制による孤立人口	34
	・ 迂回路確保率	37
I-2.	安全できれいな水の安定供給に向けた水資源確保対策を推進する。	
	・ 新たな都市用水の確保	40
I-3.	誰もが安心して暮らせる総合的な交通安全対策や公共空間、建築物等におけるユニバーサルデザインの導入等の環境整備を推進する。	
	・ 死傷事故率	44
	・ 道路のバリアフリー化率	48
	・ 幹線道路の無電柱化率	51
	・ 官庁施設のバリアフリー化率	54
I-5.	船舶航行や海洋性レクリエーション活動の安全の確保を図る。	
	・ 港湾におけるプレジャーボートの放置艇隻数に対する収容能力の割合 (平成14年度の放置艇隻数を基準とする)	57
I-6.	高度医療機関へのアクセス時間の短縮を目指す。	
	・ 第3次医療施設の1時間カバー率(人口)	61
	・ 第3次医療施設の1時間カバー率(面積)	61
I-7.	テロなどに対する危機管理体制や保安対策を強化する。	
	・ 管内の国際海上輸送の拠点となる重要な港湾において不正侵入を防止する施設整備を完備している外航船用公共港湾施設の割合	64
II.	中国地方の美しく豊かな自然・歴史・文化などを活かした地域づくり	
II-1.	瀬戸内海等への環境負荷の低減を行うとともに、海や川の豊かな水辺環境を享受できる社会を目指す。	
	・ 下水道処理人口普及率	67
II-2.	自然環境の保全・復元を図り、生態系の再生を目指す。	
	・ 復元・創出された砂浜の面積	71

- ・ 失われた自然の水辺のうち、回復可能な干潟の中で再生した水辺の割合（港湾関連分のみで湿地を含まない） 74
- ・ グリーン庁舎改修の達成度 76

II-4. 地域の特性を活かしつつ、良好かつ特徴的な道路環境の創出を推進する。

- ・ 夜間騒音要請限度達成率 79

II-5. 建設副産物リサイクルを推進するとともに静脈物流システムや廃棄物処理対策を推進し、循環型社会の形成を目指す。

- ・ 可能な限り減量化したうえで海面処分場でも受入が必要な廃棄物の受入 83

II-6. 生活圏中心都市へ短時間でアクセスできる地域を目指す。

- ・ 日常生活圏中心への安定到達率 85
- ・ まちの魅力度評価(中山間地域) 88

II-7. 歴史的・伝統的なまちなみを保存するとともに、自然・歴史・文化を活かした観光を中心とした地域づくりを目指す。

- ・ まちの魅力度評価 [総合] 91

III. 競争力ある地域経済社会の再構築

III-1. 国際コンテナ貨物及び原材料、エネルギー資源等の海上輸送を効率化し、物流コストを削減する。

- ・ 国際海上輸送拠点における港湾EDI加入率 96

III-2. 都市内の交通を円滑にし、渋滞の減少を目指す。

- ・ 渋滞による経済損失額・損失時間(損失額) 99
- ・ 渋滞による経済損失額・損失時間(損失時間) 99

III-4. 地域産業を支援するため、空港・港湾から高速道路等のICまでのアクセスの改善や拠点都市相互の連携を促進する。

- ・ 空港・港湾のIC連結率(空港) 103
- ・ 空港・港湾のIC連結率(港湾) 103

III-6. 産官学の技術連携を支援し、新技術・新工法の活用を促進する。

- ・ 全工事発注(整備局)のうち新技術・新工法を活用する割合 106

IV. 周辺地域との交流・連携と国際交流拠点の機能強化

IV-1. 広域的な交流・連携の支援発展のため、高規格幹線道路等の整備によりこれらのICまで短時間でアクセスできる地域の拡大を目指す。

- ・ 高速道路等ICの30分カバー率(人口) 108
- ・ 高速道路等ICの30分カバー率(面積) 108
- ・ 主要都市間の所要時間短縮率 111
- ・ 都市間連携率 114

IV-2. 広域的な交流促進及び世界に開かれた自立的な地域の形成を図るため、国内航空ネットワーク等の充実及び港湾等において国際旅客対応機能の強化など国際化のため活用を目指す。

- ・ わかりやすい道路案内標識設置率 117

第2章 主要事業のフォローアップ 119

- 2-1 主要事業の進捗状況 119

フォローアップとは

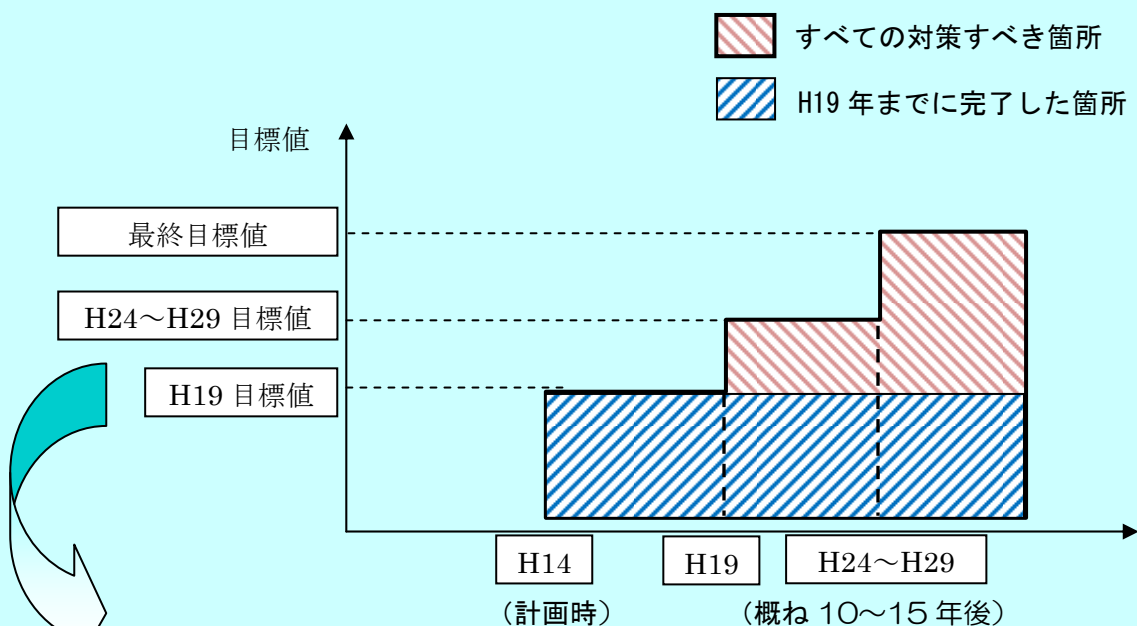
フォローアップとは

現ビジョンでは、事業の達成度を示す数値として『アウトカム指標』を設定しました。目標の計画期間は平成 14 年度～平成 19 年度までの 5 カ年及び 10～15 年後の 2 つであり、このうち、今回、平成 19 年度までの指標の達成状況の評価を行いました。

アウトカム指標とは

アウトカム指標とは、地域の将来の姿を具体的にイメージでき、生活実感に見合った数値のことで、その数値の変化により施策や事業の成果をわかりやすく表すことができます。

▼アウトカム指標における目標値の達成進捗イメージ



※今回のフォローアップは、H19 目標に対する達成度を評価するものです。

“アウトカム指標のフォローアップ”の構成

I. 安全・安心
II. 自然・歴史・文化
III. 競争力
IV. 交流・連携

7 洪水、高潮、地震、土砂災害などの災害や重大事故等に対して強い地域づくりを推進する。

アウトカム指標：重点的な投資により浸水被害を緊急に解消する戸数。

1 **アウトカム指標値**

現状：約2,900戸 | 実績値(H18)：約2,900戸 | 目標(H19までに)：約4,400戸 | 達成見込み値：約3,900戸 | 将来：-

▲指標の解説

浸水被害を緊急に解消する戸数

重点的投資を行う緊急対策特定区の規模の洪水（高潮）から防衛さ※緊急対策特定区とは・・・沿川の保全すべき資産が大きく水道地区において、完成目標年次を設定投資による短期集中型事業を実施し早期発現を図ることとした区間です

2 **アウトカム指標を達成するための主要事業**

- 本田川広域河川改修事業（高瀬対策）（H19年度完成予定）・谷分瀬川広域河川改修事業（高瀬対策）（H19年度完成予定）
- 由良川広域河川改修事業（高瀬対策）（H19年度完成予定）
- 小谷川広域河川改修事業（高瀬対策）（H19年度完成予定）
- 小川河川改修事業（高瀬対策）（H19年度完成予定）
- 小川河川改修事業（高瀬対策）（H19年度完成予定）
- 小川河川改修事業（高瀬対策）（H19年度完成予定）

3 **アウトカム指標値を示す図柄・データ等** 【H19年度末】

由良川

小谷川

本田川（高瀬対策）

小川河川

谷分瀬川

赤田川

● 目標達成済み（緊急対策特定区）

○ 目標未達成区間（緊急対策特定区）

4 **達成度報告（指標値の経緯）**

近年の異常気象に伴う浸水被害を最小化するため、広域的な浸水対策や都市型の浸水対策を行うことで、降雨等による地域の浸水面積及び浸水戸数の削減を進めてきました。

【達成状況】

しかしながら、本田川の高瀬対策区間の一部で地元調整が難航したことや、由良川の放水対策において、掘削土の土質が当初計画から変更になったことで、処分先への事業調整のため、事業期間が一年延期となりました。その結果、予定年度での完成が困難となりました。

緊急対策特定区における浸水被害の目標達成率（平成19年度末）

河川	目標達成率
本田川	約50%
由良川	約50%
小谷川	約50%
谷分瀬川	約50%
小川河川	約50%
赤田川	約50%

2ヶ所の河川で目標未達成

5 **今後の取組み**

近年の異常気象などの自然的状況の変化や少子高齢化などの社会的状況にできるだけ早期に被害を最小化するため、広域的な浸水対策や都市型の浸水対策により、効率的・効果的な浸水対策を推進するとともに、危機管理レベルを向上させていく。

色根県出雲市所原町付近

平成18年7月豪雨による浸水状況

6 **次期ビジョンにおける個々のアウトカム指標を継続採用するか、新たな指標を検討するか、廃止にするかを示しています。**

本指標は、近年の異常気象等による浸水被害を解消するため、広域的な浸水対策を継続して使用していきます。

7 **効果事例**

事業名①：小谷川広域基幹河川改修事業

【事業概要】

小谷川河川トンネルにおける河川改修により、水害常襲地帯であった地区の浸水面積および浸水戸数の削減を図りました。

【整備効果】

浸水被害は激減！ 家屋浸水被害はゼロ！！

【整備前】

【整備後】

河川の比較

年度	浸水戸数
H17	約100
H18	約50
H19	約20

浸水戸数の比較

年度	浸水戸数
S17	約100
S18	約50
S19	約20

浸水戸数 減少

平成18年7月豪雨では、日雨量167mm、時間最大雨量46mmを記録しましたが、河川トンネル等の河川改修により、浸水被害が激減し家屋被害は発生しませんでした。

- 1 アウトカム指標の現状値、目標値、実績値、将来値を掲載し、達成か未達成を記載しています。
- 2 アウトカム指標を達成するための代表主要事業を掲載しています。
- 3 アウトカム指標値を、図柄・データ等のビジュアルで示し、わかりやすくしています。
- 4 アウトカム指標の達成度を、達成・未達成の根拠とともにわかりやすく示しています。
- 5 達成度の報告を受け、見えてきた今後の課題を記載しています。
- 6 次期ビジョンにおける個々のアウトカム指標を継続採用するか、新たな指標を検討するか、廃止にするかを示しています。
- 7 各目標を達成するための主要事業の整備効果事例を掲載しています。